

H268前震崩落状況

飯田丸資料1-1



断面: No.2+0.5

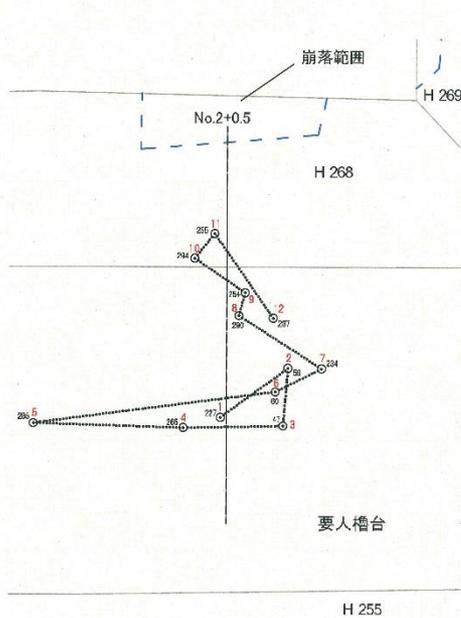
石材番号	通し番号
227	1
59	2
47	3
295	4
285	5
60	6
234	7
290	8
254	9
294	10
255	11
237	12



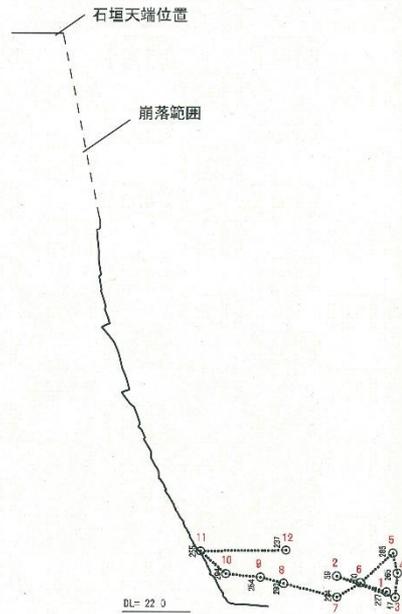
崩落縦断面の位置

石材番号と通し番号対照表

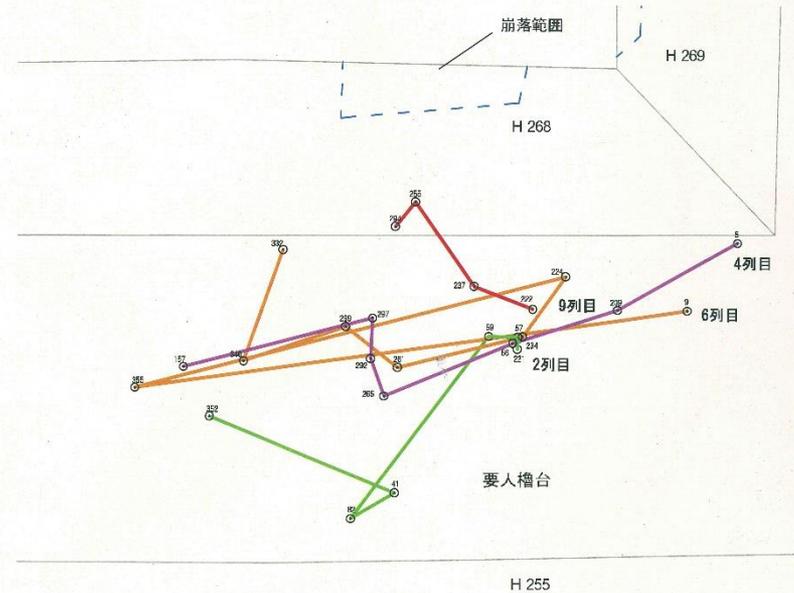
崩落横断面の位置



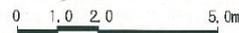
崩落状況平面図(縦断面)



崩落状況断面図(縦断面)

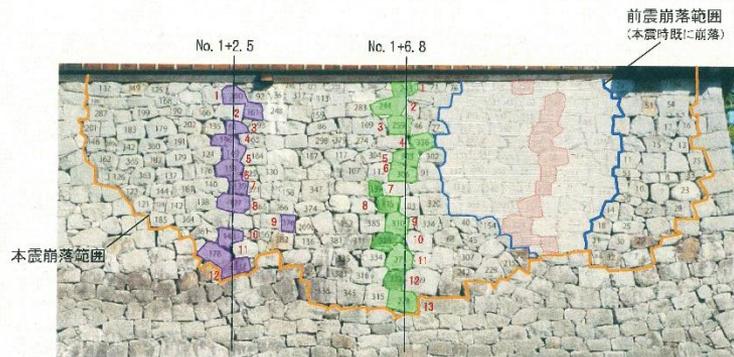


崩落状況平面図(横断面)



H268本震崩落状況

飯田丸資料1-2



崩落縦断面の位置

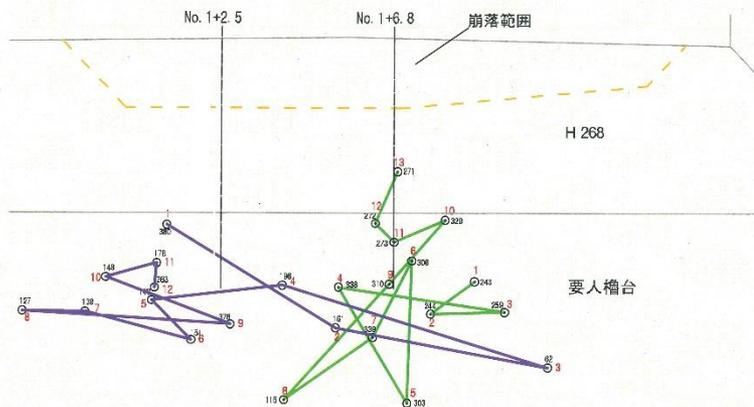
断面: No.1+2.5 断面: No.1+6.8

石材番号	通し番号	石材番号	通し番号
380	1	243	1
161	2	244	2
62	3	259	3
196	4	338	4
149	5	303	5
191	6	306	6
139	7	339	7
127	8	115	8
376	9	310	9
148	10	329	10
178	11	273	11
383	12	272	12
		271	13

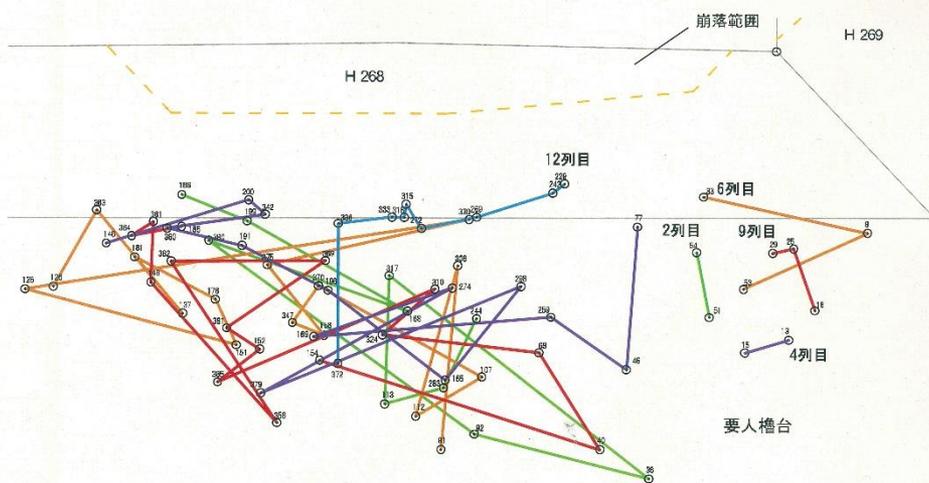
石材番号と通し番号対照表



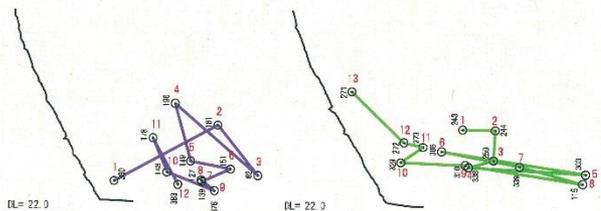
崩落横断面の位置



崩落状況平面図(縦断面)

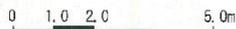


崩落状況平面図(横断面)



崩落状況断面図
(No.1+2.5)

崩落状況断面図
(No.1+6.8)



H269本震崩落状況



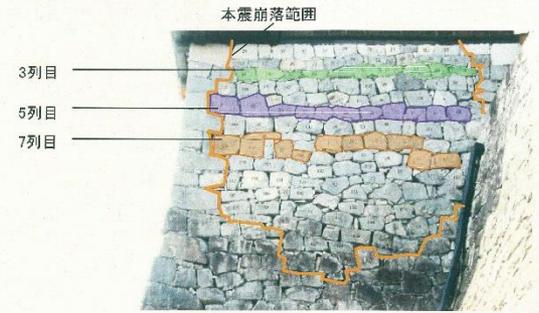
崩落縦断面の位置

断面：No.0+7.3

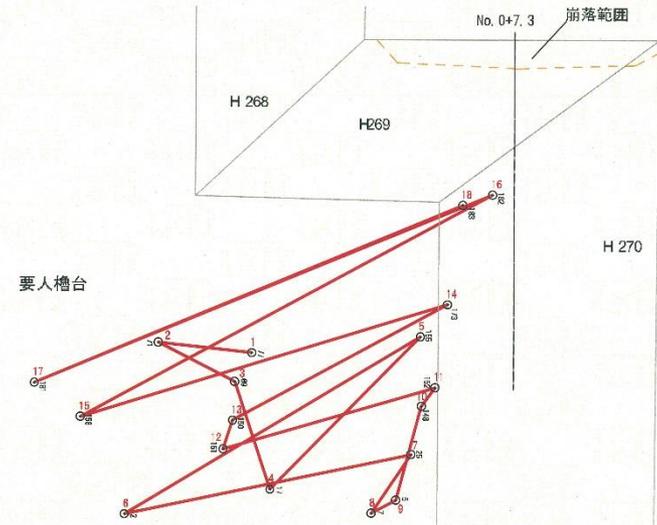
石材番号	通し番号
77	1
71	2
69	3
17	4
155	5
2	6
25	7
7	8
5	9
148	10
152	11
151	12
150	13
173	14
158	15
182	16
181	17
183	18

石材番号と通し番号対照表

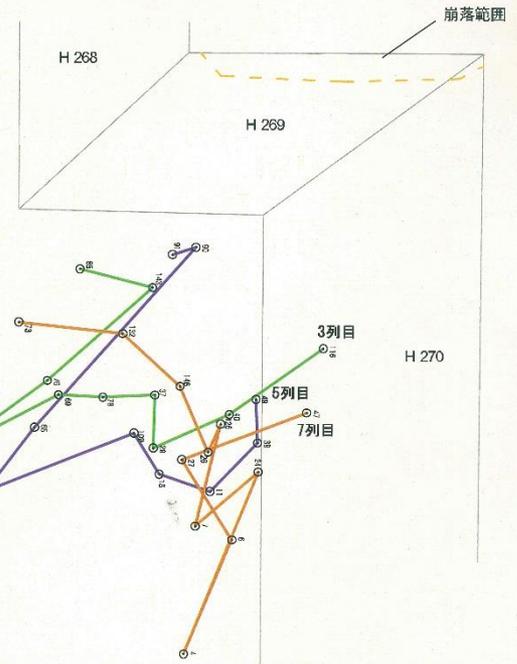
飯田丸資料1-3



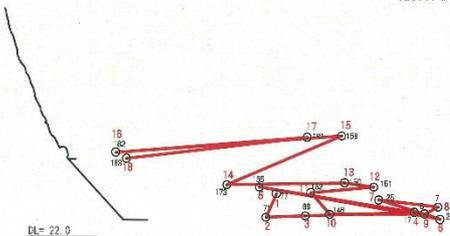
崩落横断面の位置



崩落状況平面図(縦断面)



崩落状況平面図(横断面)



崩落状況縦断面
(No.0+7.3)

0 1.0 2.0 5.0m

① 慶長4年～元和元年（1599～1615） ② 慶長17年～元和元年（1612～1615）

新城築城期
築城当初石垣

飯田丸拡張期
五階櫓台当初石垣

③ 明治22年（1889）
明治22年熊本地震後修理
陸軍修理石垣

④ 平成13年（2001）
平成17年復興櫓前修理
文化財修理石垣

【築石】



【石材形状：多角形】 ○
【石材形状：方形】 ○
【横目地の状況】 通りにくい
【築石同士の接点】 多い？（非解体のため推定）
【間詰・銅石の状況】 多い

○
○
通りやすい
やや多い
多い

△ 江戸期築石再加工
◎ 江戸期築石再加工+新材
通る
少ない
少ない

◎
○
通りにくい
やや少ない
多い

※江戸期修理（1751年・検討中）の可能性が高い部分と重複。

【裏栗石】



【石材形状：円礫】 ◎（川原石）
【石材形状：角礫】 ×
【石材サイズ】 10×10cm・小（拳大）？
【石材同士の噛合】 弱？（非解体のため推定）
【施工の状況】 同一石材による単体？
【土・遺物混入状況】 不明（非解体のため）
【2016地震被災後状況】 崩壊なし、変状あり？
築石・間詰石・銅石にヒビ割れ
南面石垣の一部に勾配変状？

○（川原石・山石混在）
◎
石列25×25cm、小10×10・中20×20・大30×30
強
複数石列施工後に大中小サイズの石材を詰め込む
一定レベルで層状に混入
【2016地震被災後状況】 H269一部崩壊、部分変状
築石・間詰石・銅石にヒビ割れ・破損
勾配変状

◎（一定レベルで層状にまとまりあり）
◎
天端付近に一定量の築石大、左記の大中小混在
無
一定レベルに拳大玉石石材、その他大中小混在
すべてにおいて土混入、遺物は天端付近に大量混入
【2016地震被災後状況】 H268・269崩壊、変状
築石・間詰石・銅石にヒビ割れ・破損
勾配変状

○
○
左記の大中小混在
無
栗石層と砕石層の互層
多い（砕石層あり）
【2016地震被災後状況】 H266・267変状
築石・間詰石・銅石にヒビ割れ・破損
勾配変状